	学級活動		児童会活動	○	学校行事	別紙様式１

令和６年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校　長	古本　宗久	生徒指導主事	末長　純太
取組事例名	『他者受容感、自己有用感を高めるメッセージボード』				

１　取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
令和５年度の i-check の結果から、自己肯定感（自分にはいいところがある等）の項目は高い数値が見られたが、他者と関わる質問（期待されている、頼りにされているなど）の数値が低い傾向にあることがわかった。行事を通して、児童の他者受容感や自己有用感を高める。	他者を評価したり、他者からの評価を受け入れたりして、他者受容感や自己有用感をもつ児童。

２　展開

取組の具体的内容

他者受容感や自己有用感を高めるために、友達のよさを評価し合うメッセージボードの作成を行った。１回目のメッセージボードは、運動会の練習や本番での友達のよかったところや、がんばっていたことなどを児童同士で相互評価させた。２回目は十小子ども文化発表会の練習や本番、学習などでの取組の中で友達の良かった所やがんばっていたところなどを児童同士で相互評価させた。また、１回目、２回目共に職員からのメッセージも掲示した。

取組
①行事の練習や本番での良かった所や、がんばっていたことなどを児童同士で相互評価する。相互評価の仕方は、配布するカード（折り紙を切ったもの）に相手の良かった所やがんばっていたことなどを書き、メッセージを送る。
②メッセージが記入されたカードを、１枚のボードに貼り付け、全校児童が見ることのできる校長室前に掲示する。
③クラスの全員が落ちなくメッセージを受け取れるように書く相手を決める。

取組の創意工夫

児童にめあてをもたせるために

年度初めに職員に概要を周知して、児童が事前に友達のよさや頑張りを見つけながら行事に取り組むようにした。取組を始める際にも、再度職員に文書を配布し、どのような掲示物ができるのかを見える化し、児童に伝えてもらうようにした。

児童の意欲を高めるために

２回目からは、デザインを公募し、児童がデザインするための用紙を配付した。また、ＳＳＲでは、不登校、不登校傾向にある児童と集まったカードを貼り合わせる活動を行った。

児童の頑張りを認め、価値付けるために

掲示することで自分の名前を探したり、自分が書いたカードを友達に紹介したりする児童の姿が見られた。また、職員にもカードの記入をお願いしたことで、職員も児童の頑張りを評価する場となった。

３　成果と課題

〇自分の名前を探したり、自分が書いたカードを友達に紹介したりする児童の姿が見られた。
〇ＳＳＲの活動に取り入れたことで、不登校傾向にある児童も自己有用感をもつことができ、登校するようになった。
〇児童アンケート「自分のよさは、まわりの人から認められている。」の肯定的回答が、７月が 75.9%、12 月が 74.3%であまり変化は見られなかった。完成時に放送や委員会活動などで周知をすればよかった。